

# 令和7年度国立高等専門学校第5ブロック技術職員研修

技術室第2班 技術職員 井村裕亮

## 1. はじめに

本研修の目的は、九州沖縄地区高専の技術職員（教育研究支援組織、学科、教室及び実習工場等における教育・研究の技術支援等に従事する職員）に対して、その職務の遂行に必要な服務等に関する一般的知識及び技術に関する専門的知識等を習得させ、技術職員の資質の向上を図ることである。

本研修は国立高等専門学校第5ブロック会議主催のもと、材料系、化学・生物系および建築系技術職員が対象となり、北九州工業高等専門学校が担当校であった。佐世保高専からは2名が参加し、計11名での研修となった。

## 2. 研修日程

日時：令和7年9月9日(水)～9月10日(木)の2日間

会場：北九州工業高等専門学校

実施内容

9月9日(水)	開講式
	講義Ⅰ：「建設業DXが開く未来 — 地方から世界へ、理念で現場をつなぐナレッジマネジメント」
	技術課題発表
9月10日(木)	講義Ⅱ：「生分解性ポリマー探索のための蛍光色素の開発」
	講義Ⅲ：「教職員による学生へのハラスメントについて」
	工場見学：安川電機みらい館
	閉講式

## 3. 研修一日目

開講式が行われ、北九州工業高等専門学校片山佳樹校長の挨拶から始まり、集合写真撮影と連絡事項の説明がなされた。

講義Ⅰ：「建設業DXが開く未来 — 地方から世界へ、理念で現場をつなぐナレッジマネジメント」（有限会社ゼムケンサービス 籠田淳子代表取締役）では、建設業界が直面する課題をDX×中小企業×理念の三本柱で



図1.集合写真

解決し、地方から世界へ展開する未来を描くをテーマに講義が行われた。人手不足や属人化など、これからの社会全体に生じるであろう課題をどのように変革し、解消するべきなのかをこれまでの事例や経験を踏まえながら資料の解説がなされ、佐世保高専で

も参考にできるような興味深い内容であった。

技術課題発表では、受講者による一般的または専門分野に関する技術的な事項についての発表および質疑応答がなされた。佐世保高専からは、藤井奈穂子技術専門職員が「佐世保高専『SKY ラボ』による科学探究活動と教育連携の取り組み」と題し、佐世保高専化学・生物工学科の教員および技術職員の指導の下、学生が主体となって行う研究活動の紹介や、中学校との連携活動による教育教材の作成について、活動成果や今後の展望や課題を発表した。他高専の活動や、質疑応答によって良い刺激を得ることができた。

#### 4. 研修二日目

二日目は、講義Ⅱ：「生分解性ポリマー探索のための蛍光色素の開発」（北九州工業高等専門学校生産デザイン工学科物質科学コース 大川原徹准教授）から始まり、ご自身の研究内容について、社会で何が求められているのか。それを解決するにはどのような手段があるのかという話から、そこに向かう道筋や難しい化学の話をわかりやすく解説された。出前授業で蛍光について触れたことがあったため、非常に有意義な時間であった。

講義Ⅲ：「教職員による学生へのハラスメントについて」（北九州工業高等専門学校学生相談室カウンセラー 園田美貴氏）では、主に教職員から学生や他の教職員に対するハラスメントについて講義が行われた。学生や教職員と接する機会が多い以上、加害者にも被害者にもなる可能性があることを念頭に置くことを改めて考える良い機会となった。

工場見学では、安川電機のロボット工場と安川電機みらい館を見学した。ロボット工場は、人とロボットの協働作業により産業用ロボットの組み立てが行われ、安全性を担保しつつ、効率的に組み立て作業が行われる様子を見ることができました。みらい館では、これまでで作られたロボットの展示や、ジェンガやもぐら叩きで人と競争したり、サーボモータの高速高精度制御による演示など、これまで培われてきた高い技術力に目の当たりにした。



図 2.工場見学集合写真

#### 5. おわりに

2日間の研修を通して、他高専の取り組みや講義を通して、今後の業務を行うにあたって必要なことは何かを考える良い機会となった。担当校であった北九州工業高等専門学校の皆様、講義を担当して下さった先生方、また忙しい中、研修会へ送り出してくださった本校の皆様にも、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。